

## 「2017年国立台湾大学スプリングスクール参加報告書」

京都大学教育学部2年 森川真由子

意義深い大学生活を送る上で、春、夏各二か月にもわたる休暇をどう過ごすべきなのだろうか。これまで計3回その間に向き合ってきたわけだが、その中で、私は「新しい環境での学び」というテーマのもと、主に英語学習に焦点を当て、実行を重ねてきた。

さて、大学生活も折り返しを迎える今春、私はこのプログラムに参加する機会を得た。第2外国語として学習している中国語能力の向上に加え、国際社会、とりわけ東アジア社会への知見を深めることを志しての参加である。

## ① 学習成果

第2外国語として学習しているとは言え、実践的な中国語力はとても学習歴に比例したものではなかった。しかし台湾での三週間を経て、リスニング力、スピーキング力が格段に進歩し、物怖じすることなく中国語を用いる自信を獲得することができた。加えて、中国語を学ぶ理由・目的をより鮮明に認識する機会にもなった、と強く感じている。

## ② 台湾での経験

私たちが三週間滞在したホテルでは朝食のみが提供され、昼夕に関しては自由に調達することとなっていた。ホテルから5分も歩けば、夜市で「好吃」な牛肉面や生煎包を味わえる。と同時に、注文という形で実践的な中国語を使用することもできた。昼の授業終了後、教室近くの店で野菜粥をテイクアウトし、舌先を見事に火傷したこと。あまりの美味しさに小吃店の揚げたて蛋餅を三日連続で夕飯として食したことなど、振り返れば、やはり食に関する思い出が多いように思われる。週末のone-day tripで念願の九份老街を訪れた際には、観光地化が予想以上に進行していることに驚いた。が、台湾大学のstudent advisorお薦めのローカルフードに舌鼓を打ち、ここでもまた表情筋を緩ませることが懐かしい。

## ③ プログラム内容

それぞれ6、7人という少人数クラス(計4クラス)内で、週5回(月～金)の中国語授業が展開された。台湾での中国語学習ということで、配布されたテキストは基本的に繁体字で記されており、当初はそれに対して多少の戸惑いを覚えた。しかしながら、先生の細やかな配慮(簡体字を併記してくれるなど)と慣れによって、何ら問題なく学習をこなせるようになった。

レクチャーはすべて中国語で行われたため、リスニング力の伸長は勿論のこと、毎朝行われる小テスト(前日の学習内容に基づいている)や、盛んな対話練習を通して、知識が効果的に定着しているのを実感した。また、最終週は授業時間の一部が期末報告(プレゼンテーション)の準備に充てられたので、報告内容の更なる充実に努めることができた。

ところで、このプログラムには中国語授業の他、台湾、または中国語圏の文化(Traditional Chinese Culture, Introduction to the Music in Taiwan, Chinese Folkloristics)に関する講義も含まれていた。それらは私の知識欲をたいそう刺激するもので、中国語学習のさらなる動機付けとなったと言えるだろう。

## ① 進路への影響

台湾大学のstudent advisorやプログラム参加者には、多様なバックグラウンドと価値観を持つユニークな顔ぶれが揃っていた。こうした同世代との邂逅は、これからの自分の進路を考える上で、非常に有意義なものであった。もともと留学志向は高かった私だが、このプログラムを修了したことで、台湾を含む東アジアへの関心が高まった。大学院留学を視野に入れながら、今後も専門課程と語学の学びに励んでいきたい。